

bit-driveのソリューションで、企業ネットワーク構築の問題がすべて解決。兼任のネットワーク担当者を大幅削減。



C-TEC事業部
担当副部長

佐藤 大蔵さま



間接事業部
総務部 総務課
担当課長

中庭 秀哲さま

株式会社カラーテックさま

事業内容：映像に関わる業務全般 フォトC-TEC（麹町店2F）現像、デジタル画像処理等の写真に関する業務全般、オンライン写真受注システム、映像ソフトの企画、制作、撮影、ノンリニア編集、DVDのオーサリング編集、ダビング e-SonyShopインターネット通販 SONYSHOPC-TECリアル店舗（麹町店1F）人材派遣

映像プロダクションのカラーテックさまでは、テレビ局の移転に伴い新規オフィスとショップを出店されることになり、これを機会に専用線から一気に光ファイバーによるネットワーク構築を行い社内業務の劇的効率アップを図られました。

導入商品

ファイバーリンクpro IP8/ファイバーリンク pro IP1/ネットワークサーバーバック
ウィルスチェックゲートウェイサービス/グループウェア"desknet's"

課題

麹町本社と近隣3事業所間を128Kbpsの専用線で社内LANを構築し基幹業務を運営していた。各部署のインターネットは別回線によるダイヤルアップでセキュリティ対策も未実施だったため、社内インフラの一元化と高速化を図りたい。

ソリューション

NTTのBフレッツ開始と同時に光ファイバーを申し込み、ADSLを飛ばして一気に光ファイバーを導入した。当初は民生用で30Mbpsのルータから開始し、その後、法人向けbit-driveのネットワークサーバーバック導入で最高80Mbpsのスループットを得るとともに、基幹業務と社内インターネット回線の一元化、セキュリティシステム構築、インターネットVPNによる拠点間接続を一挙に解決した。

● 導入の背景

基幹業務回線とインターネット回線の一元化も実現。
128kbpsの専用線からbit-driveに変更。

Q カラーテックさまの自社回線としてbit-driveを採用された経緯をお聞かせください。

A 以前、弊社では麹町の本社と近隣の3拠点間にそれぞれ128kbpsの専用線を引き、社内LANを構築して基幹ネットワークを運用していました。インターネットへの接続は基幹ネットワークとは別に各拠点毎にISDN等のダイヤルアップで運用していました。本社内の隣同士のPCでも接続できない12つのネットワークが存在し、使い勝手はよくありませんでした。

2001年に東京23区でADSLのサービスが始まった当時、ダイヤルアップだった弊社もすぐに導入したかったのですが、管轄であるNTT交換局がビルの建て替え工事をするため、東京の中心地に居ながらADSLの利用ができない「陸の孤島」状況に置かれてしまいました。そこで、NTT局舎の完成とともにスタートしたBフレッツサービスにいち早く申し込み、インターネット接続に関しては、一挙にADSLを飛び越えて、光ファイバーを導入しました。

そこで128kbpsの専用線からbit-driveに移行すると同時にネットワークを一元化しようと検討を開始しました。回線が2系統に分かれていた理由には、当時「インターネットVPNでは基幹業務ソフトを動かした前例がない」とベンダーさんが難色を示していたこともありです。そこで、まずは実験してみようと、弊社とbit-driveのデモルームとの間にインターネットVPNを構築して検証したところ、全く問題が無かったことからbit-driveへの移行が決定的になりました。

当時の民生用ブロードバンドルータは、スループットが最大30Mbps程度の物しか存在しませんでした。しかし、基幹業務のネットワークと一元化するにはセキュリティ対策もしっかりした物にする必要がありまし

たが民生用では100Mbpsに対応するファイアウォール機器もほとんど存在していませんでした。

業務用の回線を選ぶに当たっては、実測スループットが80Mbpsと高速で、これに対応するファイアウォールとウィルスチェックサービスがあるというファイバーリンクの資料に大変興味を惹かれたこと、bit-driveの営業の方から「VPNの構築が1週間でできます」と対応いただいたこと、料金体系が明確で、DigitalGateがレンタルで提供されるため、初期費用が抑えられるなどの点が決め手でした。

● 導入してのメリット

VPN構築で遠隔地の拠点も本社同様の運用。
DigitalGateの機能はフル活用。

Q bit-driveのご利用状況をお聞かせください。

A 本社と3拠点にそれぞれファイバーリンク proとネットワークサーバーバックを導入し、基幹系ネットワークとインターネット系回線を一元化しました。128Kbpsの専用線からインターネット回線100Mbps、VPN（VPN拠点間40Mbps）が構築でき、回線の高速化とDigitalGateの各種機能を使ったセキュリティ体制を構築することができ、問題を一挙に解決できました。

さすがに100Mbpsの光ファイバーのパフォーマンスは素晴らしく、Web上の各種サービスとローカルのハードディスク内のデータをシームレスに利用することができ、業務効率が飛躍的に向上しました。

日本テレビ放送網さまが汐留に移転したことによって弊社もテレビ関連事業部は汐留へ、本社機能および、テレビ以外の事業部は麹町の2極体制となりましたが、VPNを構築したことで基幹システムやデータの共有はもちろん、数10メガの画像データや数100メガの映像データをVPN経由で送信が可能となりました。例えば、汐留の日本テレビタワー内で受注した画像や映像データもVPN経由で麹町に送信するといった場合でも以前のようにMOに入れてバイク便で運ぶよりも速く安く送れるようになりました。

